

わたくしたちには、  
ふるさと小樽を安全安心で、  
活力あるまちとして、  
次の世代に引き継ぐ責任があります。

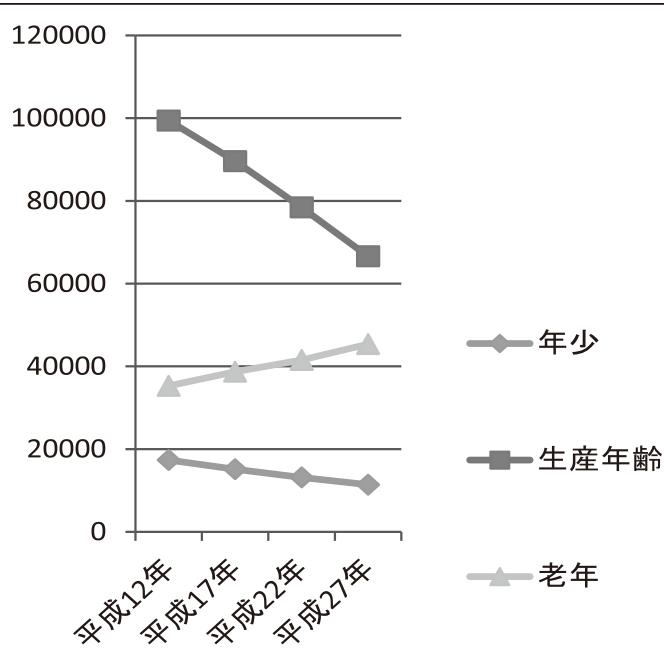
小樽みらい会議 代表 はざま 俊哉

## 1. おたるの今

小樽市の人口は、昭和30年代から40年代にかけては20万人を超えていましたが、今はおよそ12万人まで減少しています。

自然動態（出生 < 死亡）と社会動態（転入 < 転出）を合わせて毎年およそ2000人づつ減少を続けています。

下図のように、特に、市外転出などによって生産年齢人口（15歳～64歳）の減少が顕著です。このことは、別の面から見ると、担税力と購買力の流出でもあり、将来における本市の活力低下が懸念されます。



## 2. おたるの未来

「未来の年表」（講談社現代新書刊）という本が話題になっていますが、おたるの未来を見てみましょう。

2020年	東京オリンピック、パラリンピックが開かれます。
2025年	団塊の世代の方々が75歳以上になります。
2030年	北海道新幹線が札幌まで開通します。
2040年	小樽の人口が73,841人と推計されています。（国立社会保障・人口問題研究所）

2040年には本市の人口が7万人台になるという推計もあります。人口の減少に歯止めをかけ、持続可能な地域社会を築いていくことを考えていかなければなりません。そのため、私たちは次のことを行っていかなければならぬと考えます。

- 1) 東京オリンピックなどに向けて官民が力を合わせ、さらなる誘客に努め、市内経済にその波及効果を広めること
- 2) 高齢の方々を中心に病気や介護の予防を進め、健康で豊かな生活を守ること
- 3) 子育て世代の皆さんが安心して子どもを産み、育てることのできる環境や、児童・生徒の可能性を引き出す教育環境を醸成すること
- 4) 中小企業を中心とした地域産業の振興に努め、若い世代の方々の地元への定着を進めること

小樽みらい会議では、ふるさと小樽の未来を皆さんとともに考えてまいります。